

## 【なら近大農法について】

奈良県と近畿大学農学部との連携のもと、多様な担い手の円滑な就農を支援するため、①ユニバーサル農法（ローテク）と② ICT（Information and Communication Technology）農法（ハイテク）の2種類の農法を実践し、「なら近大農法」の確立を目指しています。

### ① ユニバーサル農法（ローテク）

ポリエステル媒地は長期間物理性と化学性が変化しないことから、不耕起栽培が可能となります。また、物質を吸着しないので連作障害が出にくく、軽量のため高設ベンチやコンテナなど様々な方法で栽培ができます。この特長を活かし、本事業では、老若男女が障害の有無にかかわらず簡単に組み立てるユニバーサル農法の開発を目指しています。肥料を単肥から調合して与えれば、付加価値の高い、高単価の医療用野菜（低カリウム、低リン、高亜鉛野菜）の生産ができます。このようなユニバーサル農法をマニュアル化し、農業参入のハードルを下げることを目的としています。



ポリエステル媒地を用いた切り花アンズリウムとハーブ栽培

### ② ICT 農法（ハイテク）

従来の農業は個人の経験や勘に頼ることが多く、就農初期の所得の安定が問題となっています。農作物の栽培管理に ICT を導入することにより農作業の自動化を実現し、農業の初心者でも容易に栽培管理が可能となります。ICT 農法の導入と高収益作物の生産・販売により安定した所得の確保を実現させることができます。収穫物については食感、匂いなどの嗜好性の調査や機能性成分などの分析、高付加価値品種の開発、咀嚼力の低下した高齢者や生食の苦手な人が手軽に栄養摂取できる加工品などへと転換することで、消費拡大を図ることができます。本事業では、ICT 農法を用いてメロンとトマトを栽培し、学生に栽培・管理のノウハウを修得させるとともに、ICT 農法をマニュアル化し、農業に携わる人材を育成することを目的としています。



ICT 農法を利用したトマトの養液栽培



栄養を手軽に摂取できるトマトシャーベット